

8970
243

第一遊擊隊機密第一號

昭和二十年四月六日

天一號作戰海上特攻部隊作戰二閃スル參謀長口述

第二艦隊司令部

一作戦一般

大元帥作戦海上特攻部隊作戦顧問スル參謀長、口達覺

(1) 沖繩ニ來攻セル敵攻略部隊ニ對シ我航空部隊ノ總攻撃ニ
三十二軍ノ攻撃ニ策應シ海上特攻部隊トシ突入作戰ヲ實施スル
事トナリマシタ

戦局重大ナルハ特ニ速ルマデモナク國家存亡ノ岐路ニアリ此ノ
部隊ノ最後ノ花形トシテ多年苦心演練シタル砲ヲ發射シ
トハ武人トシテノ本懐之ニ過ケルモノハアリマセン此ノ六彈丸ノ續
ク限リ最後迄一騎當千獅子奮迅ノ働キヲナシ敵ノ一艦一艇並
ルマデ之ヲ撃滅シ戰勢ヲ一舉ニ挽回シ皇恩ノ萬分ニ報ヒタイト
シマス

海上特攻部隊ト命名ナレタル所以モ此處ニテ存シマス

(2) 今田ノ作戰ニ於テハ基地航空部隊ノ必殺攻撃ナルモ敵兵力ハ

尨大ナリテハ尚優勢ナル敵ト會敵スル事ヲ予期シナクテハナリマ
セン

優勢ナル敵ニ對シハ先ツ夜戦ニ依ルヲ最良トスルモ近時電測兵器
ノ発達ト共ニ敵ノ夜戦モ悔ルベカラザルモノアリ夜戦ニ於テハ分散突入
攻撃ヲ集中一部ヲ以テスル牽制煙幕ノ利用誘致戰ニ於ケルニ
段斜進ノ利用等機ニ應ジ實施シ得ル様子ヲ研究準備シ腹案
ヲ定メ置カレ度尚決定的打撃ハ夜戦ニ繼グ晝戰ニ於テ實施スル必
要アリ晝戰ニ於テハ主隊ヲ中心トスル集團肉迫攻撃ニ依ル必要ガ
リマス

(3) 從來兎角最初ノ計畫ニ捉ハレ情況ノ變化ニ即應シ獨斷專行ニ
缺タルト突ガアツタ様ニ見エマシタカ刻々變化スル實狀ニ即應シ命令指
令等ヲ待タズ全般ノ作戰ヲ考ヘ最善ノ處置ニ決シテ予メ
腹案ヲ定メ置カレ度

二術科其ノ他ニ関シ

(1) 對空砲戰

一 對空砲戰能力向上ノ具體的施策ハ從來研究トシテアル處之ヲマ
部下ニ普及徹底シ生死ノ間之ヲ實行スル様指導セラレ度
ニ從來ノ戰訓ニ鑑ミ敵機ノ來襲ニ際シテハ回避ハ當然行ハルヲ以テ
各對空射撃関係員ハ回避中充分射撃効果ヲ發揮シ得ル様工夫
スルト共ニ直衛配備ニアル駆逐艦ハ主力ノ掩護射撃ニ關シテ一段ト
工夫セラレ度

(2) 夜間砲戰

夜間ハ特ニ電測間接射撃ヲ理想トスルモ現狀ヲ以テハ電測照明
射撃ヨリ他ノ尚敵ガ煙幕ヲ展張セル場合ニモ一應之ニ應ズル砲戰
ニ關シ腹案ト準備ヲ進メ置カレ度

(3) 對潜戰闘

(一) 行動海面ハ敵潜水艦密集シアル狀況ニ鑑ミ各種情報見張ニ注
意スルト共ニ吐嗟ノ處置ニ遺憾ナキ様一層哨戒長ニ注意ヲ喚起シ置
カレ度

(二) 航路ハ

予定セラルルモ敵情ハ變化ニヨリ吐嗟ニ要針スルハ回避スル
場合通信速度不良ナルヲ以テ極力電話ヲ活用スル予定ナル
モ哨信機ノ活用ニ関シテモ萬全ヲ期セラレ度

(三) 魚雷戰

魚雷戰ハ突入作戰ニ於テ最モ効果ヲ期待スル處ニシテ魚雷ノ
必殺的用法ヲ誤ラザル様特ニ水雷長ヲ監督サレ度且敵水上艦
艇ニ對スル電測発射誘致戰煙幕利用中ニ於ケル二段斜進
ノ活用ニ関シハ充分研究シ置カレ度但シ二段斜進ノ利用ニ
ハ從來ノ攻撃法ヲ誤ラザル様注意セラレ度

245 (ホ) 味方識別

行動海面ニ於テハ多敷彼我飛行機出現スルヲ以テ味方識別ニ関シテハ特ニ注意セラレ度味方機ノ発着ニ関シテハ極力各隊ニ通知スルヲ定ナリ尚夜戦ニ於テハ分離別動スル場合アルヲ以テ地味ニ艦位ノ記入ヲ精確ニシ自己ノ位置針路速力通報ニ努メラレ度

(ハ)從來一般ニ報告通報漏レタクク作戦戦闘指導不如意トナリテアリ各級指揮官ニ於ケレテハ特ニ此ノ矣留意アリ度 旗艦ヨリハ極力敵情等ノ通報スルヲ定

(四)航海見張信號

(一)本行動中ハ接岸航路淺水艦伏在海面機雷敷設海面通過視界不良等ヲ考フレバ相當困難ナル航海ナレヲ以テ艦隊保持見張ニ関シテハ特ニ注意セラレ度 相當長期間夜間戰術訓練等ヲ行ハザルニ關係上見張能力低下ヲ予期セラレルヲ以テ哨戒長哨戒長附ハ部下ヲ督勵シ自ラ見張ル意氣込ヲ以テ當ラ度

(二)待機中通信訓練ノ成果ニ鑑ミルモ信號費消時短ニ大ナリ信號員ヲ督勵シ且哨戒長(同附)ハ自ラ信號應答ヲ督勵スル様心掛ケラレ度

(三)爆撃回避運動中大和ノ速力低下後回性能ニ関シテ特ニ注意セラレ度

(五)通信

(一)艦隊通信ノ適否ハ作戰ノ成否ヲ左右スル重大事項ナル處今次ノハ急編成部隊ニシテ此ノ矣懸念サルル處大ナリ各隊(艦)ハ嚴重ナル関心ヲ以テ最後迄教育訓練ニ努ムルト共ニ速ニ關係諸法ニ通曉シ通信實施ニ當リテハ幹部ノ積極的陣頭指揮ヨリ遺憾ナキヲ期セラレ度

(二)今次作戰中飛行索敵始ド之ヲ基地航空部隊ニ依存スルノ已ムナキ處敵情獲得ノ成否ハニ相互ノ通信連絡ノ適否ニ歸ス

水上部隊トシテハ基地航空部隊關係通信ノ全幅直接受信
ニ努ムト共ニ重要入手事項ハP.Y.Bニ速報サレ度

(三) 接敵時飛行機ノ索敵觸接報告ハ戦闘中ノ指揮連絡並ニ諸
般ノ通信戰務ノ適否ハ戦闘ノ勝敗ヲ決スルコトナリ適切ナル報
告通信兵器ノ整備ノ通信艦内費消時ノ極限ニ特ニ留意シ不

注意ノ錯誤等ニ依ル遲延誤差ノ絶無ヲ期セラレ度

(四) 電波輻射防衛ニ関シテハ從來屢々注意ヲ喚起サレアル處ニシテ
早期ニ我ガ企圖ヲ看破サルルガ如キ事ナキ様不必要ナル電波ノ
輻射ハ一切之ヲ嚴禁スル如ク指導アリ度

(五) 今次作戰中ハ電話ヲ極度ニ利用スル如ク計畫サレアリ之ヲ活用
シ極力費消時ノ短縮ニ努ムト共ニ不時ノ指呼ニ即應スル如ク
常ニ嚴重ナル待受ノ實施電波精度ノ保持ニ努メラレ度

特ニ戦闘中通信ノ適否ハ勝敗ヲ左右スルコト多シ常ニ聯達ヲ日

途トシ最大能力ヲ發揮セシムル如ク通信ノ指揮當務者ノ指導

監督ヲ適切ニサレ度

(六) 艦隊通信戰力ノ持續發揮ハ作戰成否ノ鍵鑰ナリ基地航
空部隊其ノ他トノ協同上今次通信計畫複雜過重ナルハ己ムヲ

得ザル處ニシテ戰機ニ應ジ通信配備ノ変更ヲ指導セラレルモ

各隊(艦)ハ幹部ノ現場指揮ニ依リ配員要務並ニ被害時ノ

應急通信ニ関シ事前ノ準備ニ遺憾ナカラシムルト共ニ僚隊(艦)
ノ通信中継代行等適時適切ナル協同ニ関シ特ニ留意指導サレ

度

三要スルニ當隊ハ海上特攻隊トシテ任務ハ重大ナルモ艦隊ノ編成ハ
変則ニシテ更ニ乗員ノ交代後訓練不充分ナル莫アリ

從ツテ各級指揮官ハ部下ノ能力ヲ充分ニ考ヘ其ノ指揮統制
ニ関シ超人的努力ヲ以テ細心大膽事ニ當リ克ク個艦ノ

248

247

247

247

戦鬪力ヲ萬全ニ發揮スル事ヲ望ム

